

## 平成30年度 学力向上のための重点プラン【小学校】

## ■ 学校の共通目標

<b>授業づくり</b>	重 点	日常的な授業改善による確かな学力の定着と向上をはかる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎、基本の徹底（読み・書き・計算は系統的に確実に）</li> <li>・対話的、主体的な深い学びを目指す。学びに向かう力、人間性等の涵養を図る。</li> <li>・指導と評価の一体化（年間指導計画と評価規準の改善）</li> </ul>	中間評価	7月実施の保護者アンケートでは、「先生は分かりやすい授業を行っている」で93ポイント、「子供たちに考える力や表現する力を高める指導をしている」で88ポイントと高い評価を得ている。一定の成果が出ているということができる。	最終評価
		学習規律の徹底をはかる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・態度、発言、話し合い、学習用具、机上整理など</li> </ul> 家庭学習の習慣付け、自学自習		OJTや教師のBASICの効果で、授業態度は良好である。全体的に学習規律も向上していると思われるが、家庭学習については、家庭の協力が得られず、滞る状況も見られた。	

## ■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組み（10月）	最終評価（2月）
1	国語	学意欲的に学習に取り組むことができる。 学1文字ずつは読めるが文を音読することに課題がある。 学へにをはの使い方に課題がある。	・言葉のまとまりが認識できない。 ・へにをはの使い方の定着。	・音読の機会を意識的に確保する。 ・書く指導を意識的に行い、添削をする。	
	算数	学たしざん、ひきざんの計算間違いがある。 学文章題の読み間違えがある。	・計算間違い ・文章題に慣れていない。	・計算練習を毎時間行う。 ・文章題を解く活動を多く行う。	
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月） ➡ 最終評価（2月）
2	国語	学9割ほどの児童が学習に対して意欲的に取り組んでいる。 学積極的に読書活動に取り組んでいる。 学音読に意欲的である。 学漢字を丁寧に書こうとする意欲が高い。	・文章中の促音や濁点の抜けが見られる。 ・句点や読点の適度な使い方に課題が見られる。 ・てにをはの使い方に課題が見られる。	・日記指導を中心に定期的に書く活動を行い、繰り返し文章表現をすることで正しく適切な使い方を身に付けさせる。 ・本を中心に様々な文章を読んだり、友達同士で読み合ったりすることで間違いに気づき、訂正する力を身に付けさせる。	・作文を書いた後、文章を見直して句点や読点を加える学習を繰り返した結果、適切な箇所に入れる力が身に付いた。 ・作文を友達同士で読み直す活動を行った結果、正しいにをはの使い方が身に付いてきた。
	算数	学既習のたし算引き算の計算を暗算ですぐに答えられる児童が7割ほどいる。1割はまだ指を使って計算をしている。 学足し算の筆算で位を揃えてノートに書き、順序よく計算することができている。	・繰り上がりのある足し算の筆算は、繰り上げることを忘れ、計算ミスをする児童が1割ほどいる。 ・「6」と「0」の違い、「0」や「4」の書き方に間違いが見られる児童が数名いる。	・宿題を中心に繰り返し計算問題に取り組ませ、間違い直しまで確実に行わせることで確実な計算力を身に付けさせる。 ・書き方の宿題プリントに取り組ませることで、正しく丁寧な数字の書き方を身に付けさせる。	・繰り上がりのあるたし算は、確実にできるようになってきている。 ・繰り下がりのあるひき算は、2割ほどの児童が繰り下がりを忘れる傾向があるので、宿題で繰り返し取り組ませる。 ・かけ算九九を確実に暗記させる。
3	国語	学学習に対する意欲は高い。音読をするときに声の強弱や声の高さに気を付けて読む児童が多い。 調領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」について区平均よりおよそ10ポイント低い。 調漢字を書く力や語彙力に課題のある児童が多い。	・大事なところを落とさずに最後まで聞くことが難しい。 ・言葉や文章を書いて答える問い合わせに対し、無答になってしまう児童が学級に数名いる。 ・既習の漢字を使わず平仮名で書いてしまう。送り仮名の誤りが多い。	・ミニ作文を書いて掲示するなどして、友達の書いたものの良さに触れさせながら良い書きぶりが身に付くようにする。 ・話を聞くときは相手の方を向くことを徹底し、まず話を聞こうとする態度を育てる。 ・新出漢字の学習では書ききや写し書きの時間を保障し、字形を意識して書くことができるようにする。また、漢字や言葉に親しみがもてるようなクイズやゲーム、ワークなどを工夫する。	・国語辞典を使う習慣が身に付き始めた。 ・個人面談での「書くこと」に関する実態調査を行い書き方のモデルを示すことで、「何を書けばよいか分からない」「どう書いてよいか分からない」という児童を支援してきた。 ・話を聞こうとする態度は少しづつ身に付いてきてる。 ・個人面談での保護者からの要望が多かったため、宿題で毎日漢字の書き取りを2文字ずつ行い、定着を図るようしている。
	算数	調基本的な計算はおおむね定着している。区平均とほぼ変わらない数値である。	文章題になると、問題を正しく理解できず、誤答や無答が目立つ。	文章題の大切なところに線を引いたり、図に表したりしながら問題の意味を正しくとらえて立式できるようになる。	・デジタル教科書の利用により、視覚的な理解がすんだため、計算や位取りの仕組みについてはつまずきが減ってきた。しかし、数の相対的などらえ方については考え方方が身に付いていない児童が多い。 ・加法・減法の筆算の仕方と、乗法の筆算の仕方が混同している児童がいる。今後、宿題等で習熟を図る。 ・数直線図等に表すとき、問題を一文ずつ順に図にしていくことで、正しく立式できるようにしている。
4	国語	調漢字を書く問題の正答率が全国平均と比べて最大13ポイント低い。 調ローマ字の綴り方の問題が全国平均と比べて8ポイント低い。 調読むことは全国平均を上回っている。 調話すこと・聞くこと、書くことの正答率が全国平均と比べて最大20ポイント低い。	・習得した漢字の定着率が低い。 ・友達の話を聞くことが苦手である。	・漢字辞典の活用、ノート記入の際に漢字を使わせる、ミニテストを多く行う ・話しの聞き方を習得させ、声かけを続ける。	・漢字を使おうと意識している層と、全く使おうしていない層に二分されている。使おうにも覚えていない児童が一定数いるので復習に力をいれる。 ・話の聞き方を指導したことで意識するポイントがわかつてきた。話を聞くことが以前よりできるようになった。集中力を持続させることが課題である。継続して行っていく。

	<b>算数</b>	<p>調 數と計算の領域はたし算・ひき算・かけ算は全国平均と同等か若干低い程度であった。わり算が5~10ポイント低い。</p> <p>調 量と測定の領域は、全国平均と同等程度であった。</p> <p>調 図形の領域は道具を使った問題の正答率が9ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加減乗除の基本的な計算処理がきちんとできていない。</li> <li>手先が不器用であり、道具を使っての作図が正確にできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、計算問題を授業で取り組ませる。宿題を意図的に出す。</li> <li>作図の学習を計画的に行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四則計算の問題を授業時間を使って意識的におこなってきたことで、スピードと正答率が向上している。平均に達しない児童が一定数いるので引き続き行う。</li> <li>計算問題を重点的におこなってきたので、作図はできなかった。後期に行う。</li> </ul>	
5	<b>国語</b>	<p>調 昨年度の区学力調査の結果からは、どの領域についてもすべて標準スコアを上回った。</p> <p>学 主語と述語が相対していないことがある。また、単語や短文での会話や作文が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙力が乏しい。</li> <li>作文などの書くことにおいても、スピーチなどの話すことにおいても、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙力を伸ばすために、読書の時間を少しでも確保する。</li> <li>朝の会や帰りの会を利用して、日直のスピーチをし、相手を意識した構成で話せるよう取り組む。スピーチに対し、質問や感想を伝えることで、聞き手も相手の意図を考えながら聞くようする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や文法等の知識・理解についてはある程度定着している。</li> <li>書く技能をさらに高めていくために、毎週末には、新聞記事の感想や日記などのある程度の長さの文を宿題に出し、取り組ませることで表現力を高めていく。</li> </ul>	
	<b>算数</b>	<p>調 2月に実施した昨年度区学力調査の結果から、どの領域についてもおおむね目標値を上回っているが、「角の大きさ」「あまりのあるわり算」については、目標値を下回った。</p> <p>学 公式は知っていても、計算ミスにより正答できない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>余りが除数よりも小さくなることを確かめている。</li> <li>分度器の中に示された角の大きさを読み取ることが難しい。</li> <li>途中式や、計算跡を消してしまうことにより、思考の整理ができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形式的な計算の手順だけでなく、図と対応させて視覚的に理解させていく。</li> <li>角度を測る前に、90°より大きいか小さいかなど見積もりをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識・理解、技能は定着している。</li> <li>文章題でも読み解き、解決する能力をさらに高めるために、自信のある問題でも、自分の考えの経過を振り返ることができるよう、図や計算の後を残し、正確に確実に正答できるようにしていく。</li> </ul>	
6	<b>国語</b>	<p>調 領域別正答率を見ると「書くこと」の領域で1.9ポイント、「読むこと」の領域で2.0ポイント区平均を下回っている。</p> <p>調 観点別正答率を見ると、「読む能力」が、区平均を2.2ポイント下回り、平成28年度の同観点と比較しても1.0ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読解問題に対して、正対した回答ができない児童が3割いる。</li> <li>事実と考えを分けて意識的に発表したり、表現したりすることのできない児童が5割程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の読解場面では、意図的に「考え」と「事実」を分けて答えるような発問を取り入れる。</li> <li>筆者の考えに対する自身の考えを、ノートに短文で書く活動を1学期は多めに入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5割の児童は読解場面で「考え」と「事実」を分けて捉えられるようになった。2月までに8割の児童が「事実」を根拠に「考え」を出せるようにする。</li> <li>考えに対して考えを述べる、書くという活動を苦手としている児童が5割を超える。反論や共感など視点を定めて考えが出来るようにする。</li> </ul>	
	<b>算数</b>	<p>調 観点別正答率を見ると、「算数への関心・意欲・態度」の項目について区平均を3.4ポイント、平成28年度の同観点を5.9ポイント下回っている。</p> <p>調 「図形」の正答率が他の領域より高くなっている。平成28年度の同領域と比較すると9.7ポイント上回り、区平均と比較しても5.4ポイント上回る結果となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業外で先行して学習した既習事項がある児童が7割いる。既習事項に対し関心を示さず、語彙の本質的な理解ができていない児童が2割いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「算数への関心・意欲・態度」を高める指導のために、少人数の習熟度別指導を生かし、習熟度に合わせて問題提示や課題設定を行っていく。解法を発表させる際には、図形領域であれば、適切な表現で図形についての説明ができたり、条件に沿った作図ができるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項であっても、少人数クラスの実態に応じて丁寧に扱うようにした。語彙力が向上したことにより既習の知識が結び付くようになり図形領域のテストの平均正答率はワークテストで80%を超える。</li> <li>一方で説明を要する場面で、既習の用語が出てこない児童も3割程度いる。継続して指導していく。</li> </ul>	
<b>音楽</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも意欲をもって取り組む児童が多い。</li> <li>個人差が大きく、苦手意識の強い児童は自ら取り組むことが難しい。</li> <li>知識理解の定着が難しい。</li> </ul>	<p>音楽の基礎的な知識を身につけないと音楽の学習が深まらない。知識をきちんと定着できる指導の工夫が必要。</p>	<p>プリントやICTを活用し、児童がわかりやすい授業を工夫する。わかりにくい内容のものは児童の実態に合わせスマールステップで指導するようにする。</p>	<p>学芸会等の発表する機会を活用し、意欲をもち、学習に向かう気持ちを高めるようにする。</p>	
<b>図工</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援対象の児童は、どの学年、学級にもいるが、図工の授業では自力で取り組むことができる児童がほとんどである。巧拙は別として、造形活動をとても楽しんでいる。</li> <li>昔は、低学年において、図工に関係なく、休み時間などに折り紙を折っていたが、近年そうした光景も少なくなったこともあり、年々、手指を上手に使えなくなっている傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの児童が楽しんで活動しているが、絵を描くのが苦手、細かい作業ができないなどの意識から、活動意欲に欠ける児童もいる。そうした児童は学年が上がるにつれて増加傾向にある。</li> <li>はさみやカッターなど基本的な道具類の扱いが上手にできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手意識を排除するためには、できないことを減らして、できることを増やしていくことが重要である。当該児童には個別指導をていねいに行うこと、その他の児童に対しても、ICT機器を活用して簡潔でわかりやすい指導をする。</li> <li>道具類の扱いについて、安全指導を徹底する。難のある児童には個別指導を入念に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手意識を生む原因となる技能面の指導については、特に個別指導をていねいに行っている。新しいプロジェクトを用いて、視覚的に明解な指導を心がけている。</li> <li>すでに彫刻刀、カッター、のこぎり、電動のこぎりなど危険を伴う道具類を使っているが安全指導を徹底し、大きなけがは発生していない。</li> </ul>	
<b>家庭</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習を楽しみにしている児童が多い。</li> <li>布作品の製作は、両手を使うので、慣れないことに抵抗感を持つ児童もいる。</li> <li>快適な家庭のためには、様々な仕事が必要なことを認識できていない。</li> <li>興味のあること、やりたいことに飛びついてしまい、手順を確認できることが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生は、調理の基礎を学習させる。特に、片づけを丁寧に行う意味を説明する。</li> <li>6年生は、炒める調理で油を使う注意点を理解させる。</li> <li>5・6年生ともに自分の課題のみに取り組み、班で協力することができない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の指示を集中して聞かせる。</li> <li>班に割り当てられた用具を使い、清潔な状態で返すことを、繰り返し行わせる。</li> <li>班としての作業の仕上がりを目標にさせる。</li> </ul>	<p>&lt;5年生&gt;五大栄養素の学習で、栄養バランスを整える必要性を理解させる。</p> <p>&lt;6年生&gt;給食献立を考えさせる学習で、今までの学習の発展的課題であることを意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5・6年生ともに、楽しむことだけでなく、準備や片付けを責任をもって取り組ませる。</li> </ul>	
<b>特支</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉でのやり取りや、コミュニケーション力に課題をもつ児童がいる。</li> <li>場面を理解したり、数の操作や計算したりすることに課題をもつ児童が多く、個々の差も大きい。</li> <li>手先が不器用だったり、刺激に弱い児童がいたりし、学習がスムーズに進まないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不安なことや、自信がない場面で言葉や行動のコントロールができないことが時々ある。</li> <li>個々の障害の特性により、学習面・生活面での差が大きく、一人一人の合わせた合理的配慮が必要である。</li> <li>運動・感覚面での発達課題を持つ児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なコミュニケーションの方法があることを日常的に指導し「伝わる楽しさ」や「聞いてわかる喜び」を味わせながら、友達や先生と関わり合う授業づくりを行う。</li> <li>家庭と連携しながら、個別指導計画や個別支援計画を作成し、個に応じた指導をチームティーチングで行う。</li> <li>合科的な単元を通して、感覚や運動面の発達を促しながら、もつている様々な力を伸ばしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞くことのよさや、話すことの楽しさを味わわせるために、質問タイムを設定したり、スピーチ活動を取り入れたりするようにした。それにより、伝わることの楽しさや聞いてわかる喜びを得る児童が増え、コミュニケーションの楽しさが広がった。</li> <li>一斉授業や、グループ学習、個別の学習などを組み合わせながら、一人一人の力を高め、個々の課題にも対応している。</li> <li>リトミックや感覚統合に関わる運動を取り入れ、粗大運動からアプローチを行っている。</li> </ul>	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となてもよい。